

水田放牧

モー  荒廃農地を増やさない!



農地がピンチ!

皆さんは、耕作されず、草木が繁茂している農地を見たことはないだろうか。

近年、農家数の減少や高齢化により、農地の管理が行き渡らず、荒廃農地の面積は、約10年前に比べ、倍増している。

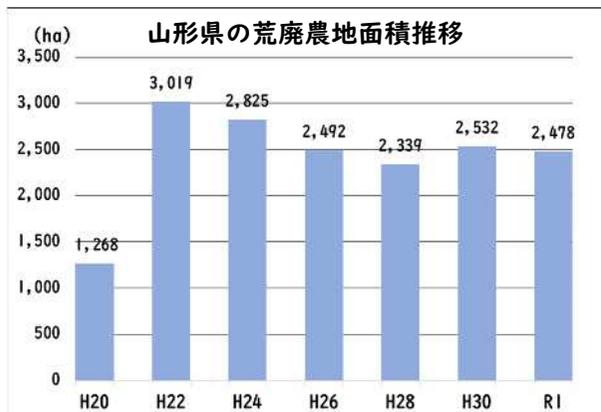
その影響は大きく、作物生産の場に限らず、水田が持つ大雨を貯留する機能や生物の住処すみかとしての役割も失われつつある。

新たな農地の管理方法

荒廃農地の問題を解決すべく小国町で取り組んでいるのが『水田放牧』だ。水田で牛を放し飼いにするこの手法は、牛に雑草や牧草を食べてもらうことで農地の維持管理にかかる労力を大幅に削減し、荒廃農地の発生を防いでいる。

小国町では平成21年から水田放牧を始め、現在約18 ha（令和3年度計画値）で取り組んでいる。

農地の活用にお悩みの方は、「水田放牧」を管理の方法の一つとして考えてみてはいかがでしょうか。



※出典：山形県農村計画課調べ



※出典：農林業センサス

水田放牧のメリット

農地の管理



牛が牧草を食べることで
草刈りなどの管理を省力化



施設の活用

使っていた水路を
牛の水飲み場として活用

牛糞が肥料となり、稲作
の肥料散布量が減る



鳥獣の隠れ場(草むら)が
減る

農地再利用



鳥獣の被害

以前は…

-  **場 所** 広い牧場か畜舎
-  **え さ** 牧草（飼料）を購入
-  **畜 舎** 畜舎を整備
-  **水飲み場** 水飲み場を整備

こう変わるよ!



- 牛が逃げないように農地の周りに電気柵を設置
- 水田に牧草の種を撒き、育った牧草を食べる
- 日よけのために簡易畜舎としてビニルハウスを設置
- 田んぼの用水路を水飲み場として利用

ばならない。

管理や利用方法を考えていかなければならない。

個人だけではなく集落全体で農地の管理や利用方法を考えていかなければならない。

○ **これから水田放牧を行う人達へ**

水田放牧は、家屋の近くで牛を飼うため、悪臭・騒音などについて周辺住民の理解を得ることが重要。今後は、個人だけではなく集落全体で農地の管理や利用方法を考えていかなければならない。

○ **水田放牧の魅力は？**

やはり、管理の労力が減ったことが一番！水田にある水路などをそのまま使えることも魅力的。

○ **水田放牧を始めたきっかけは？**

西日本で水田放牧を行っているという情報を知り、その後、当時の西置賜農業技術普及課の職員から指導してもらって、水田放牧を始めた。

鈴木富夫さん【プロフィール】

- ・小国町で初めて水田放牧に
- ・取り組み、今年で10年以上。
- ・約10 haの水田をローテーションしながら放牧している。

『水田放牧』 第一人者に聞く



～ 水田放牧の取組を支援する事業 ～

- ・農山漁村振興交付金（最適土地利用対策） など

～ 水田放牧の取組にも活用できる事業 ～

- ・中山間地域等直接支払交付金
- ・多面的機能支払交付金 など

～ 事業に係る問合せ先 ～

- ・農林水産部 農村計画課 023-630-2506
- ・村山総合支庁 農村計画課 023-621-8389
- ・最上総合支庁 農村計画課 0233-29-1339
- ・置賜総合支庁 農村計画課 0238-35-9055
- ・庄内総合支庁 農村計画課 0235-66-5549